



東京学芸大学附属高等学校

第22回 公開教育研究大会のご案内

皆様方には、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では、第22回公開教育研究大会を以下のとおり開催いたします。4年ぶりに全教科対面形式での実施となります。是非、多くの教育関係者の皆様にご参加いただき、ご意見、ご助言を賜りたく、ご案内申し上げます。

1. 主題

「生徒Agencyを育むカリキュラム・マネジメント(1)～探究活動を軸としたカリキュラムづくり～」

本校ではこれまで、カリキュラム・マネジメントを研究主題として掲げ、継続して取り組んできました。特に、生徒自らが問題を設定し、各教科の知識を総合的に活かして問題解決に取り組む探究活動には、カリキュラム・マネジメントの重要性は大きいと考えています。さらに、これからの予測困難な時代を生きていく生徒たちには、Agency-変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力-が求められており、その育成に向けて学校全体のカリキュラムを有機的なものへと高めていきたいと考えています。

2. 日時・内容

令和5年11月25日(土)

9:00	9:30～9:50	10:00～10:50	11:10～12:00	12:45～14:15	14:30～16:00	16:00～17:00				
受付	全体会	休憩	公開授業Ⅰ	休憩	公開授業Ⅱ	昼休み	研究協議会	休憩	講演会	SSH事業報告会

公開授業Ⅰ・Ⅱ 連続

教科	科目	授業者	授業タイトル	授業概要
地歴 公民	地理総合	松本 至巨	地形から災害の可能性を考える	授業で学習した地形について、地形図で読み取ったり、過去の地図等と比較するなどして、身近な地域の特徴を知り、災害の可能性を考える基礎的な力を身につけさせたい。
数学	数学B	大谷 晋	統計的な推測を通して育む生徒のAgency	災害に備えて、本校生徒約1000名分の食料の備蓄量について考える。生徒の一部にアンケートをとって消費量(食べる量)を調べて、備蓄量を算定する。
理科	物理基礎	西村 墨太	音速測定の実験デザイン	物理基礎では単元の終わりの授業で、それまでに学習した知識・技能を活用し、生徒自ら実験デザインする探究活動を行っています。公開研究会では音速測定の実験及び成果物としてのポスター作成の授業を公開します。
理科	化学基礎	成川 和久	化学電池を評価する	”素晴らしい”化学電池、の”素晴らしい”を班員で話し合っ、化学電池の具体的な評価内容と評価基準のルーブリックを作成する。化学電池を実験で作り、作成した電池を自分たちが考えたルーブリックで実際に評価をする。
保健 体育	保健	中田 雅皓	性感染症はなぜ蔓延するのか	性感染症の広がりについて、教室内で誰もが安全に行うことのできる実験・体験を行う。その結果から、近年の性感染症の蔓延について思考を促し、理論と実社会(企業・世界での取り組み)を繋げて考察、共有させ、思考・行動変容に繋げていきたい。
芸術	音楽Ⅰ	居城 勝彦	太平洋地域の音楽に親しもう	ハワイアン音楽のウクレレ弾き歌いの経験からその音楽文化の成立背景を調べ、人々の営みと合わせて省察する。そこで思考したことを自らの音楽表現の中に活かそうとする活動に取り組む。
芸術	工芸Ⅰ	神田 春菜	人々の生活を心豊かに演出する～キャンドルスタンドの制作～	社会的な視点に立って、キャンドルスタンドを陶土で表現したり、鑑賞したりする題材である。本授業では、油粘土で制作した試作品を社会的な視点から客観的に分析し、より条件に合った作品へと改善していく活動に取り組む。
芸術	書道Ⅰ	荒井 一浩	臨書から倣書、創作へ	宋の四大家の一人、米芾の「蜀素帖」を教材に臨書、集字による倣書、さらに意図を持って自分らしい作品に昇華する過程を学ぶ。本授業では、集字をどう変えたいのか、そのためには何をすべきかを考え実践していく。

公開授業Ⅰ

教科	科目	授業者	授業タイトル	授業概要
国語	言語文化	佐藤希世子	古典と近現代の作品を比較し自分の考えを深める	『伊勢物語』『梓弓』、『大和物語』『蘆刈』と近現代の作品を比較し、「永遠の愛」について考察する。公開授業では『伊勢物語』『梓弓』の描かれている時代背景や時間の経過を理解しながら読解する。
外国語	英語コミュニケーションⅡ	豊嶋 維	インタラクティブを通じた内容理解 -ルーティンと即興性-	All in English の授業の中で思考を促すために、ルーティン化した活動の中で初見・初聴の質問を投げかける。その質問について生徒間及び生徒・教師間のやりとりの中で思考し、本文理解を進めていく。

公開授業Ⅱ

教科	科目	授業者	授業タイトル	授業概要
国語	文学国語	日渡 正行	夏目漱石『こころ』分析のキーワードを考える	今年度の「文学国語」では、「小説」と「評論」を合わせて一つの単位とし、両者を積極的に結びつけている。夏目漱石『こころ』と若林幹夫「漱石のリアル」を読み、『こころ』を分析するキーワードを探る。
外国語	英語コミュニケーションⅠ	加藤 淳	調整中	調整中
家庭科	家庭基礎	栗原 智美	金融教育と家庭科「対象を意識した『金融教育』の授業を考える」	「金融リテラシーを高める」視点から①金融庁副教材 PP で学習、②「FIRE」を素材として投資専門家の授業を受け、③自分ごととして「金融教育の授業を生徒自身で考え」プレゼンする、流れの中での③の部分授業公開する。

研究協議会

各教科で実施（芸術は音楽・工芸・書道それぞれで実施）

講演会

講師 白井 俊 先生（文部科学省国際統括官付国際戦略企画官）

2015年、OECD（経済協力開発機構）教育スキル局アナリスト。2017年、文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室長。

2019年より独立行政法人大学入試センターに出向し、現在、試験・研究統括補佐官（兼）試験企画部長。国立教育政策研究所フェロー。

SSH 事業報告会

今年度は、公開教育研究会の講演会後に SSH 事業報告会を実施致します。本校は現在、経過措置2年目を迎えており、次年度の3期目申請を目指している最中です。事業報告会では、本校の探究活動や国際交流、特別授業などの内容を中心に、これまでの活動と共に今後の活動の方向性について報告致します。

3. 参加申込

公開授業および講演会への参加申し込み受付は、10月初旬以降本校HP（<http://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp>）で行います。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、公開授業の参観は一教室50名までの人数制限を設けさせていただきます。何卒ご理解のほど、よろしく願いいたします。参加申込および本校へのアクセスは、右QRコードから本校HPをご覧ください。

問い合わせは、下記までお願い致します。

東京学芸大学附属高等学校

〒154-0002 東京都世田谷区下馬 4-1-5 TEL：03-3421-5151(代) FAX：03-3421-5152

E-mail：gaku-ken@gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp 担当：研究部 齋藤 洋輔

